

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

角膜手術対象患者における摘出角膜の組織所見と前眼部光干渉断層計及び共焦点顕微鏡所見との比較

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部視覚科学系眼科学分野（附属板橋病院眼科）・准教授(医局長) 林孝彦

＜研究期間＞

承認日～（西暦 2029）年 3 月 31 日

＜対象となる方＞

2016 年 4 月 1 日～2028 年 12 月 31 日の期間に眼科で角膜移植の治療を受けた方

＜研究の目的＞

この研究は角膜移植の原因疾患に対する診断の正確性の向上、病態把握、手術後の治療経過を改善させることを目的としています。角膜移植を必要とする疾患の診断、治療方針の決定には、通常は臨床経過、医師による顕微鏡での直接の診察（細隙灯顕微鏡検査、スリットランプなどと言います）、前眼部光干渉断層計（OCT という器械です）、共焦点顕微鏡のような検査機器を用いて総合的に行っています。しかし、病原体や炎症、組織の変性の状態などを直接確認することは不可能です。一方、今回のように角膜移植を施行する場合には病的切除を切除、廃棄しますが、切除組織を特殊な染色などを施すことで詳しく観察すると診断の補助や確定診断に至ることもあります。本研究を実施し、通常診療で行われる画像検査との共通点や違いを明らかにすることで、今後の診断技術の向上や治療成績の改善に役立てると考えられます。

＜研究の方法＞

角膜移植を施行する場合には病的切除を切除、廃棄しますが、切除組織を特殊な染色などを施すことで詳しく観察すると診断の補助や確定診断に至ることもあります。切除された組織は病理専門医によって、診断が可能です。さらに、眼科専門医が研究室に持ち帰り、特殊な染色や電子顕微鏡で観察することもあります。

<研究に用いる試料・情報の項目>

角膜移植の際に切除する病的組織（病的角膜、病的虹彩、病的結膜、病的水晶体）

<外部への試料・情報の提供の方法>

※電子顕微鏡検査を行う場合のみ、共同研究者である同志社大学にサンプルを郵送します。個人情報は送付されません。

<試料・情報の提供を開始する予定日と、提供を行う機関およびその長の氏名>

※多機関共同研究で試料・情報の提供を行う機関に該当する場合は記載してください。

提供開始予定日：承認日～ 研究終了まで

同志社大学 生命医科学医工学科 教授 奥村 直毅
(学長) 小原 克博

<研究を実施する機関組織>

日本大学医学部視覚科学系眼科学分野（附属板橋病院眼科）・准教授(医局長) 林孝彦
きくな湯田眼科 【研究責任者】副院長 湯田 健太郎
横浜南共済病院 【研究責任者】眼科 医長 水木 悠喜
金沢大学附属病院 【研究責任者】眼科 助教(病院臨床准教授) 横川 英明
同志社大学 【研究責任者】生命医科学部 教授 奥村 直毅

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院
東京都板橋区大谷口上町30-1
診療科：視覚科学系眼科学分野
研究責任者（氏名）：林 孝彦
電話：03-3972-8111（代表）
連絡先：眼科科 医局 内線：2532 PHS：8631
FAX：03-3972-8111